

東映衛星放送株式会社

第13回番組審議委員会議事録

開催日時： 平成29年9月13日（水） 11時30分～13時00分

開催場所： 銀座 Sun-mi 本店

委員の出席： 委員の総数 8名 出席委員数 8名

出席者：

（番組審議委員）

星野岳志（委員長）、脇田巧彦、有山弘道、秋本鉄次、杉恭介、常見美佐子、赤城聡、伊藤さと
とり

（以上 敬称略）

（放送事業者側出席者）

代表取締役社長 香月純一

編成営業部 部長 山本健太郎

編成営業部 次長 高村美穂

議題： 「東映チャンネル」の編成内容に関する審議

放送事業者側出席者より、東映チャンネルの現況、最近の市場環境、「東映チャンネル」の編成内容に関する説明ののち審議に入った。

<番組審議委員の発言>

1. 昨年高倉健、三船敏郎のドキュメンタリーが製作された。それを学生に観てもらったが、今の学生はどちらも知らない。番組を編成する上では、現在の視聴者の意識の変化も考慮する必要があるだろう。昨年から日活ロマンポルノを編成しているが、東映の成人向け作品は、それともまた違ったカラーがある。その面白さの違いを視聴者にどうアピールするか、検討してほしい。
2. まずは作品の供給元である東映に、いい映画をもっと製作してほしい。『探偵は BAR にいる』や、『あぶない刑事』シリーズのような人気シリーズをもっとほしいところだ。
3. 雑誌に掲載された映画監督・中島貞夫氏と、脚本家・高田宏治氏の対談を読み、改めて

いくつかの東映の作品を見直したが、当時の日本の世相にも興味をもった。現在放送中の【ザ・東映レジェンド】の内容をさらに充実させ、当時の世相なども紹介し、視聴者の興味を喚起してはどうか。

4. 高倉健、菅原文太の追悼特集をきっかけとして入った加入者も多いと思うが、一方で解約してしまう人もいる。解約防止のためには、東映チャンネルには、マニアックなファン気質をくすぐる、ここでしか見ることのできない作品を放送してほしい。本間千代子のような、まだスポットのあたっていない女優もいるし、ピンキーバイオレンスの掘り起こしもいいだろう。名画座では、東映の女優特集や、脇役特集をやっている。そこでは、東映チャンネルでまだ放送していない作品もあったようだ。これら映画館とも、一歩ふみこんだ連携をしてほしい。
5. 映画は芸術なので、東映の当時成人向けであった作品も積極的に放送してほしい。それらの作品は地上波では放送しないので、CS 放送が重要な役割を果たしている。
6. 9月に放送される【アニメーションの神様 森康二の世界】は、非常にいい特集だ。東映では、来年1月に『マジンガーZ』の新作映画が公開されるが、2000年に亡くなった作画監督の小松原一男氏の特集を是非やってほしい。若者のテレビ離れが叫ばれているが、彼らは子供の頃に傾倒したアニメ・特撮を大人になっても支持し続けるという傾向がある。東映チャンネルでも、是非今の若者が子供の頃に観たアニメや特撮を放送し、若年層を取り込んでほしい。
7. 過去のアーカイブをいかに視聴者に見せるかが、CS の役割だ。ピンキーバイオレンスや「異常性愛路線」などは、配信系サービスでは見られない。また、DVD マスターは極力減らし、HD マスターにリマスターしてほしい。作品放送の前に解説を付けるのもいいと思う。作品紹介だけでなく、映画が生まれた当時の社会的背景なども紹介してほしい。日本映画専門チャンネルとの共同企画は、BS 視聴者層にアピールする良いクロスプロモーションだ。
8. 【ザ・東映レジェンド】は、若い俳優と、レジェンドの方々の対談にしてはどうか？そうすることで若い世代の新たな顧客をつかむことができる。また、若い俳優を使ったミニ番組を制作し話題作りをしてはどうか。

<事業者側の回答>

(4. 5. に関連し)

弊社では、公開当時成人指定だった作品についても、映倫の再審査を受け、R15 以下のレーティングが取れたものについては放送する方針である。

地上波基準では放送しづらい作品も、内容を精査し、問題がないと判断すれば放送しており、今後も視聴者からのリクエストを参考にしながら、レーティングがとれる作品については積極的に放送していきたい。

以上